

Ⅱ 表現化に視点をあてた指導法の構想

1 精神薄弱教育における学習指導の原則

従来から精神薄弱児の指導では、その行動や心理の特性から、いくつかの原則的なパターンが考えられ、実践されてきた。これらの原則は、極めて基本的常識的なものであるが、列挙すると次のようなものである。

- (1) **具体的操作の原則** 指導は、子どもの体験的具体的行動を通して進められ、子どもの直接的な生活と結びついた定着が考えられるものであること。
- (2) **スモールステップの原則** 指導は、できるだけ抵抗の少ない内容をきめ細かく準備し、興味、関心、意欲を欠いすぎ折感を味わわせることのないよう留意しながら諸能力や態度の定着をはかること。
- (3) **反復練習の原則** 指導は、理解させる（わからせる）だけでは十分とは言えない。くり返しの指導により確実な諸能力の定着、態度化をはかること。
- (4) **生活活用の原則** 指導は、子どもの生活の中でそのまま生かされていくような工夫が、常に留意されていること。
- (5) **集団参加の原則** 指導は、人と人とのかかわりを重視し、集団の中で高められるよう工夫されていること。
- (6) **個別指導の原則** 指導は、一人ひとりの子どもの生活経験、発達段階、学習能力などの確にとらえ、個に応じた指導の徹底をはかること。

精神薄弱児の学習指導は、この原則により、一人ひとりの持ち味を活かして、意欲的に学習と取り組んでいくなかで、『生きて働く力（生活していく力）』を定着させていくことである。ここで学習指導の原則について述べた理由は、表現化に視点をあてた学習指導が、従来からの指導とは異なった新奇を追うものではなく、初心にかえて、従来の学習指導を見直そうという研究取り組みの基本的能度があるからである。

現実の問題として、多様な子を前に、「何を」「どのように」指導していくのかとなると複雑な子どもの行動、反応が、十年一日の如く問題となっているのが現状である。

2 精神薄弱教育の目標と学習指導

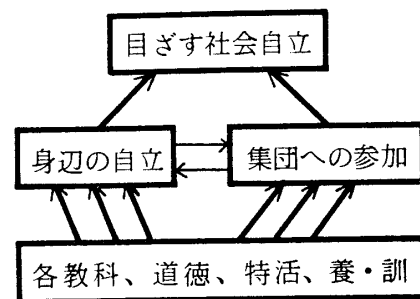
精神薄弱教育の究極の目標は、子どもの社会的自立であることに間違いはない。従来から、目標としての社会自立といえば、「家庭の一員としての役割を果し、積極的な市民生活を送ること。職を得て、社会的経済的生活に参加すること」を旨としてきた。対象とする子どもの重度化、多様化傾向に

ある現状の中でも、このような社会自立を目標とし、目指すことは当然であろう。しかし、現実の子どもを前にして見ると、如何に目指す目標とはいえ、あまりにも現実離れを感じるのである。ひいては、学習内容の精選、指導法追究の視点までボケてくる。

この問題の解決には、地域社会との連帯、社会福祉との関連生涯教育の中での位置づけ、成人施設との連携など、精神薄弱者を取りまく諸問題との取りくみのなかで、より現実的なあるべき姿が模索されなければならないだろう。

また、子どもたちが自立する社会は、特別に準備されたものではなく、健常者と共存が要求される社会である。その上、対象となる子どもは多様であり、個人差が大きいとすると、精神薄弱児の指導は、上図に示すように、身辺自立と集団参加の能力を開発することから生活経験の拡大、定着の面から模索され、その指導は常に社会的な適応が指向されていることが効果的であると考えられる。

本校の表現化に視点をあてた指導は、以上の立場に立って実践しようとして試みているのである。



3 表現化に視点をあてた指導

(1) 表現化とは

表現とは、相手(対象)に何かを伝達するということである。伝達するという行為が、たとえ言語や身体を通して十分でなくても、相手の反応を期待する行為は表現であり、他の行為とは区別して考える。例えば、奇声を発してひとりで走り廻ったり、反対にひとりで静かに読書にふけっている。この場合、たとえそれが本人にとって充実した活動であるとしても、相手の心をゆり動かそうとする意志が見えない。これらは、表現を引き出す素材や結果であっても、表現化に視点をあてた指導を展開する立場からは、区別して考えることにしている。

表現化の化とは、表現する力とか表現の拡がりを表わしている。本校が、各分野を～化とよんでいるが、一般化しているのは社会化だけで、自立化、表現化、職業化というときの化は、一般化していない。そこで、社会化の化が、「社会のものになる」とか、「社会に拡がる」(広辞林)の意味をもつと同じ意味で使用することにした。従って、～化はそれ自体社会的意味をもっており、自立への方向性を示しているのである。

そこで、表現化をひとことでいえば、子どもの行為(行動)を積極的に表現とかがかわらせることで、諸能力の獲得や態度化をはかり、『生きて働く力』を定着させていこうということである。従って本校では、中核となる分野を表現化におき、社会自立を目指す目標を表現化においているのである。

言い換えると、中核となる分野としての表現化は、表現化の内容を通して、感覚的、身体的、精神的な諸能力の発達を促し、生活の中で活かすための基礎的内容であり、目指す目標としての表現